



# 第五六回秋田県消防操法大会



題 字  
初代会長 松野 盛吉  
定 価 1部 48円  
(購読料は年会費に含む)  
発行人  
〒010-0951  
秋田市山王四丁目1番2号  
秋田地方総合庁舎内  
秋田県消防協会  
会長 中田 潤  
電話 018-867-7320  
FAX 018-863-5910  
<http://www.shoubou-akita.or.jp>  
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷  
〒010-0951  
秋田市山王7丁目5-29  
株式会社 松原印刷社  
電話 018-862-8760  
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

第五六回秋田県消防操法大会は八月二四日(土)、秋田県消防学校放水訓練場(由利本荘市岩城)において行われました。

にかほ市消防団 金子英紀副団長の総指揮により選手が入場、引き続き開会式が行われ、前回大会の優勝団から優勝旗が返還された後、堀井啓一 秋田県副知事並びに中田潤 秋田県消防協会会長が主催者のあいさつを述べました。

また、来賓を代表して、秋田県議会議長 加藤鉦一様から、ご祝辞をいただきました。

小松弘樹 秋田県消防学校長から審査長指示があり、鹿角市消防団 高杉大世団員が選手宣誓を行いました。

県内九支部の予選を勝ち抜いたポンプ車操法の部に七分団、小型ポンプ操法の部に九分団、また、軽可搬ポンプ操法の部には、二隊が出場



美郷町消防団第2分団

し、日ごろの訓練の成果を競いました。

午前中に行われた、小型ポンプ操法の部では、美郷町消防団第二分団が優勝し、三連覇を果たしたほか、軽可搬ポンプ操法の部では、昨年に続き秋田市女性消防隊が優勝しました。

また、午後から行われたポンプ車操法の部では、鹿角市消防団第五分団が優勝に輝きました。

競技の結果は、別記のとおりとなっております。



秋田市女性消防隊



鹿角市消防団第5分団

令和元年度全国統一防火標語  
ひとつずつ いいね!で確認 火の用心  
令和元年秋の火災予防運動  
一二月九日(土)〜一二月一五日(金)

## 第56回秋田県消防操法大会成績表

### 【小型ポンプ操法の部】

順位	出場団名	タイム(秒)	総得点(点)
優勝	美郷町消防団第2分団	39.26	92.0
第2位	三種町消防団第5分団	42.49	90.0
第3位	小坂町消防団第4分団	43.19	87.0
優秀賞	横手市消防団十文字支団第3分団	42.66	85.5
	由利本荘市消防団鳥海分団	41.73	81.5
	潟上市消防団昭和支団第1分団	44.86	80.0
	秋田市消防団雄和第1分団	51.07	71.0
	東成瀬村消防団第3分団	53.06	68.5
	上小阿仁村消防団第3分団	53.72	50.5

### 【ポンプ車操法の部】

順位	出場団名	タイム(秒)		総得点(点)
		第1線	第2線	
優勝	鹿角市消防団第5分団	51.82	62.29	184.5
第2位	能代市消防団能代第12分団	53.51	64.52	180.0
第3位	大潟村消防団第3分団	50.36	63.20	179.0
優秀賞	秋田市消防団保戸野分団	56.31	69.88	168.5
	大館市消防団第14方面隊	55.98	72.42	164.5
	にかほ市消防団第3分団	58.61	73.21	151.0
	横手市消防団十文字支団第4分団	67.16	72.49	146.5

### 【軽可搬ポンプ操法の部】

順位	出場隊名	タイム(秒)	総得点(点)
優勝	秋田市女性消防隊	62.10	81.5
	潟上市女性消防隊	86.70	67.0

### 【優秀選手賞】

区分	小型ポンプ操法		ポンプ車操法		軽可搬ポンプ操法	
	出場団名	氏名	出場団名	氏名	出場隊名	氏名
指揮者	小坂町消防団第4分団	亀田 憲人	能代市消防団能代第12分団	幸坂 剛	潟上市女性消防隊	田口 章子
1番員	三種町消防団第5分団	田村 悠人	鹿角市消防団第5分団	高杉 大世	秋田市女性消防隊	佐藤 友紀
2番員	由利本荘市消防団鳥海分団	佐藤 誠喜	鹿角市消防団第5分団	柏木 義隆	潟上市女性消防隊	安田さおり
3番員	美郷町消防団第2分団	出茂 彰真	秋田市消防団保戸野分団	小林 成光	潟上市女性消防隊	西村 幸恵
4番員			能代市消防団能代第12分団	幸坂 義明	潟上市女性消防隊	鈴木 美月

## 競技審査の講評

◎大会審査班長

秋田県消防学校 佐藤 弘尚

### ■総 合

今年度は軽可搬ポンプ操法の部で全国大会が行われるが、各部とも士気が高く白熱した競技が展開された。全体的には、規律、節度、タイム等、日ごろの訓練の成果が発揮されたものと感じた。今後の課題とし

て、ホースラインの蛇行や過不足、規定外圧力送水に留意して訓練に励んでもらいたい。

### ■小型ポンプ操法の部

平均タイムは、風の影響を受けた隊もあり、昨年より若干遅くなったが、成績上位チームは大幅に縮めてい。ホース展張、ホースラインの善し悪しがポイントと考える。来年は全国大会が開催されるので、一層訓練に励まれ、レベルアップしてもらいたい。

### ■ポンプ車操法の部

第一線、二線とも昨年度に比べ、タイムが速かった。ホース展張、延長動作、送水操作の練習成果と考える。課題として、乗車時の三点支持と下車時の後方確認の徹底をお願いする。

### ■軽可搬ポンプ操法の部

二隊とも規律正しい操作で、士気の高さを感じた。更なるスピードアップを目標に訓練に励んでほしい。秋田市女性消防隊の全国大会での健闘をお祈りする。



潟上市女性消防隊



秋田市消防団保戸野分団



鹿角市消防団第5分団



美郷町消防団第2分団

# 第15回 消 防 団 員 意見発表会(二)



石垣 亮

・羽後町消防団  
副分団長  
・勤続一九年  
・郵便局員

羽後町の消防力向上の一翼を担っており、その人柄と行動力は、若くして副分団長に昇格するほど信頼されています。

## 「私の体験談とこれからの消防団活動について思うこと」

去年の冬、ポンプ車で担当地域を巡回中のことです。

住民が車に向かって大きく手を振っていました。「ちよつと待ってけれ。水路さん流されでながら、助けでけれ」とのこと。車を止めて水路に向かうと、お婆さんが用水路に転落しているのが確認できました。雪かき中に足を滑らせて、転落したようでした。

同乗していた班長と二人で用水路から引き上げ、容態を確認すると、すでに心肺停止状態。救急要請し班長と交互に心肺蘇生法を行いました。呼吸が回復することを願いながら、必死に行動していたと思います。

ほどなくして救急隊が到着し引き継ぎましたが、その時点では、呼吸は回復できませんでした。

後日、救急隊からお婆さんは亡くなったと聞き、残念に思っていること、用水路から引き揚げたこと、救急要請したこと、そして救急隊が到着するまで心肺蘇生法を続けたこと、すべての対処が適切であり、すばらしい行動であったと言われました。

自然と実施できた行動が最善であったという評価について、人命救助の初期行動の大切さと、救急隊との連携などの訓練の必要性を改めて感じさせられた事案でした。

また、救助の際、住民から「この消防車にAED積んでないの?」と言われましたが、積んでいないと答えるしかありませんでした。公共の建物などにはAEDが設置されていますが、二四時間開いていないところがあります。これからは、常に開いているポンプ小屋の中のポンプ積載車等にあらかじめ積んでおき、小屋に看板や幟を設置したり、町広報で周知しながら、近隣等で有事に遭遇した際、地域の人たちも使えるようになればよいと思います。

私は今、秋田県の若手消防団員活性化推進チームの一員として、消防団活動についてどうしたらいいか、

試行錯誤しながら話し合っています。全国的にも深刻な課題である人員不足をどうするか、ポンプ操法や規律訓練の負担など、みんなが思っている課題はこの消防団も共通しています。

解決策の一つとして、まず各種手当を引き上げ、消防団員意識を高揚させることが最も大切なことだと思います。

また、少ない人数でも活動できるように、多機能車等を整備し、各種救助活動ができる部隊、仮称「ハイパー消防団」があつたらいいのではないのでしょうか。他の地域には、救助部隊を持つている消防団も数多くあるようですし、消防団の広域連携も今後は必要だと思えます。

さらに、装備の充実も必要だと思います。消防署と消防団は、役割の違いはありますが、同じ目的で火災をはじめとした各種災害に立ち向かいます。しかし、装備が違いすぎます。火災の際、消防団は、消防署の後方支援ということで危険な対応は消防署に任せ、火中には入らないからと言われてきました。役割の違い、予算面など、色々な理由があると思いますが、自分たちの身を守る意味でも、半纏ではなく、セパレーター型の防火衣を着るべきだと思います。都会や他の地域では、装備され

ている団もあります。

私は今、副分団長として活動しています。火災をはじめ各種災害での活動は、まず団員に怪我をさせないことを第一に考え、安全管理を徹底して行動しています。また、団員が気持ちよく活動に臨めるよう、より活動しやすくなるように努めています。

今後、ますます消防団活動にまい進し、町や消防署等の関係機関と連携して、より強固な地域防災力の構築のため、一翼を担えればと強く思っています。



田口 義博

・鹿角市消防団  
分団長  
・勤続四〇年  
・建築業

団員時に、全国操法大会準優勝。平成二七年から分団長として活躍。地域や団員から信頼が厚く、活動姿勢は高く評価されています。

## 「全国への思い」

私が消防団に入団したのは、四〇年前の一九歳の年です。もともと父親が消防で活動し、幼い頃から父を継承するのが当たり前という思いで、必然的に団員となりました。

入団当初は厳しい訓練があるもの

の、番屋での飲み会や団員同士のコミュニケーションを図ったりするの、一つの楽しみでありました。

消防団員としての初の出勤は、入団二年目の店舗火災でした。

しかも日中の火災であったため、団員との連絡が取れず、一人で助手席側にあるサイレンのスイッチのオンオフを繰り返しながらで、非常に緊張しましたが、現場では駆けつけた団員との合流で、協力し合いながら消火活動し無事鎮火させることができ、思い出として残っております。

私の所属している第一四分団第三部は、小型ポンプ操法に力を注いでおり、全国大会に父たちが二回、兄たちが一回の出場実績があります。

それを受けて、私も全国大会出場を実現したい想いが、日増しに強くなっていききました。

気が付いた時には、朝晩、熱の入った練習を休日にも行うようになりました。

その結果、全県大会連続出場六年目の昭和六三年、第一一回全国操法大会の切符を勝ち取り、しかも準優勝という、とてつもない榮譽を手に入れることができました。

その喜びに沸いていた最中、いろいろな事情で九年という長い年月、音信不通で何の連絡も取れなかった父親が会場に応援に来ていたという

のです。私は胸が熱くなりました。いつも自分のことを気にかけて、応援に来てくれた父のことを思うと、私は涙が止まりませんでした。

親父有り難う！元気で良かった！思わず、心の中で叫びました。

人一倍消防が好きで愛情を注いで活動していた父、その父に準優勝という姿を見せることができ、私自身、一生忘れることのできない大切な思い出となりました。

準優勝したその年に誕生した私の息子は、今年で三二歳になりますが、私と同じ二番員として日々練習に励んでおります。

この全国にかける思いを、一四分団三部の伝統を若い世代の息子たちが、次世代へと引き継いでいってくれることを願っています。

最後に、今年で私は分団長を去りますが、私の消防人生に悔いはありません。



鎌田 敏

・大館市消防団  
副分団長  
・勤続三〇年  
・団体職員

入団直後の火災で無力さと災害の脅威を痛感。以後、積極的に知識・技能の習得に努める。大館市消防団防災リーダーとして活躍中。

### 「経験を つないで 地域を守る」

私が平成元年に消防団へ入団して間もなく、同じ集落で火災が発生、民家が失火により全焼してしまいました。初めての現場で自らの無力さを痛感し、何もできなかったのは当然のことですが、原因はもう一つありました。火が怖かったのです。

多くの子供たちにとって、消防士や消防ポンプ車などは、市民の安全・安心を守るために活躍する身近なヒーローです。

しかし、私の場合、幼少期に、自宅向かいの製材所で火災が発生、その時の激しいサイレンの響きと赤色灯が怖いイメージとして、長く心に残っていたためでした。

消防団員としては、大きな弱点を持つての入団だったのです。

こんな私でしたが、当時は知識・経験とも豊かで頼りになる先輩たちがたくさんいたので、災害発生時には先輩からの適切な指導のもと、無難に活動できるようになりました。

そして、消防操法訓練や大会出場などの経験は、知識と技能の習得につながったほか、分団の仲間たちとの絆を深め、消防団員を続けていく自信につながりました。

こうした活動を通じ、団員と交流することで感じたことがあります。それは、団員の多くは、地域や

は集落で消防団活動のほかにも、様々な役割を担い、リーダー或いはサポーターとして各種イベント等に参加し、地域に貢献していることです。

団員が地域住民と交流する機会が多いことは、災害時の避難および地域防災への協力体制、更に、団員勧誘にとっても有効だと思います。

ちなみに、当分団の団員数は四二名で、大館市消防団では二番目の規模ですが、毎年減少しており、新人獲得には苦戦しています。

大館市消防団では、平成二九年度から研修を毎年実施し、新たな防災リーダーを養成しています。

防災リーダーには、地域防災の核心を担うとともに、地元消防団員の先頭に立ち、専門知識を伝える立場として、訓練等で活躍することが期待されています。

私もメンバーとして活動範囲を広げているところですが、残念ながら期待に添えていないのが実情です。

でも、機会があれば可能な範囲で、自助・共助の重要性や情報収集・伝達方法など、習得した知識を各地域へつないでいきたいと思いません。

今後は、先輩たちから受け継いだ経験を次の世代につなぎ、自ら習得した知識、経験を地域防災に役立てていきたいと思えます。

73期教育  
第1任教

実務研修を  
終えて

秋田県消防学校



坂本 樹海  
秋田市消防本部

今回で実務研修は、三回目となりました。一回目よりも二回目、二回目より三回目と確実に成長を感じながら活動できたと思います。初めての研修は、四月ということもあり、何の知識もなく、自分が分からないかも知れませんが、二回目は、泊まり勤務で慣れないこともあり、体調を崩してしまいました。今回は、経験が自信へと変わり、大きな声で元氣よく訓練等に励むことができたと思います。これまでの研修で、先輩方の活動を見ていたので、指示される前に、次を予測して行動することもできました。

今回の研修では、P A連携に必要な化学車の資機材の取り扱いを学びました。また、卒業後は、予防課への配属が決まっているので、消防用設備等の点検報告や、火災調査、査察業務の事務処理などを学びました。三回の実務研修で、今後どのよ

うな消防士でありたいか理想像を見つけることができました。残り少ない学校生活を一日一日大切に、それに近づけるように一生懸命頑張っていきたいと思っています。



松橋 稜  
秋田市消防本部

八月十三日、十四日に三回目の実務研修を行った。全体を通して、一通りの業務内容や訓練の復習をすることができ、充実した実務研修だった。特に、現場に向けての心構えや、職場に來てからの業務など具体的に教えていただき、自分が今後何をしなければならぬか、はっきりと理解できた。

午前中は、現場を想定したホース延長訓練を行った。初めてホースバックからの延長を行ったが、補助の人が曲がり角では大回りをするこことや、ホースを置く位置など配慮しなければならぬことを学んだ。

現場では長時間の活動を防火衣を着装して行うので、体力をしっかりと向上させる必要があると思う。また、役割に戸惑うことがあったため、要救助者を救助するまで、時間がかかってしまった。隊長の指示を聞いて、役割をこなせるようになり

たい。今回は、最後の実務研修となったが、反省点を活かして、残り一ヶ月半の学校生活を充実させたい。そして、署に戻ってから困らないように頑張りたい。



成田 敦也  
大館市消防本部

今回、二回目の宿泊研修を実施し、入校中最後の実務研修を終えた。

午前中は、車両・資機材点検、前に発生した住宅火災についてミーティングを行った。出勤に備えて、何がどこにどのようなものか、正常に動くのか、点検することの重要性を改めて実感した。そして、火災現場での活動について、出動した隊員が意見を交換し、出動していかない隊員と情報を共有することも大切な仕事だと感じた。自分自身もミーティングに参加して、実際の現場での筒先配備、使用した水利、現場までの出動経路など、非常に勉強になった。

午後は、水幕ホースを利用して、放水訓練を行った。火災の規模が大きくなると、輻射熱、熱気流、飛び火によって、かなり遠方の建物等へ延焼拡大するので、水幕ホースによ

る放水は、延焼防止に効果的であると感じた。今回の実務研修を通して、職員間の情報共有が大切だと感じた。情報が十分に共有された隊員は、仕事を進める上での判断材料が増えるため、正しい判断がしやすくなり業務を円滑に進めることができる。情報共有の重要性を意識して、残りの学校生活を送っていきたい。



木内 大智  
由利本荘市消防本部

三回目の実務研修を終えて、多くのことを学び成長することができました。午前の訓練では、応急梯子の訓練をしました。ポンプ車から三連梯子を下ろし庁舎の屋上に架梯し、要援助者に三重もやい結びで縛着して、地上に搬送する流れを訓練しました。学校でも行っている訓練でしたが、不安からか確認呼称が小さくなってしまうので、自信を持って、大きな声を出すことを意識して、訓練に取り組みたいと思います。

午後は、注水要領とホースを二階に搬送する訓練を行いました。途中、山での遭難の通報が入ったので訓練を中止し、遭難の対応要領を見学しました。遭難の人数の特定や位

置など、様々な情報を全体で共有して、出動する車両と隊員の人数を想定していました。警察や防災航空隊などと連携し、活動する現場を見ることができました。残り少ない授業や訓練で多くのことを吸収して、職場に戻ったときに迅速に対応し、適切な判断ができるように努力していきたいと思います。



畠山 滉平  
鹿角広域行政  
組合消防本部

今回、実務研修でしか学ぶことのできないことを学ぶことができました。まず、消防署に着くと、前日当直であった先輩、上司が事務仕事をしています。私は、しっかりと挨拶をして中へ入りました。業務引き継ぎを行い、車両・資機材の点検を行いました。もしも現場で使用できないと大変なので、しっかりと点検しました。次に、資機材の取り扱い訓練を行いました。学校でまだ使ったことのない物も使うことができ、所属に戻った時に使えるように、しっかりと復習をしたいと思います。午後からは、出動訓練をしました。気温が高く、三十分ほどで疲れてしまいました。暑さに慣れる必要があると思います。次に屋内検索訓練をしまし

た。真つ暗な状態での検索がいかに難しいかがよく分かりました。

忙しい中で、私たちの実務研修に時間を割いていただき、多くのことを学ぶことができました。あと一ヶ月半、気を引き締めて頑張ります。



小川 宗太郎  
能代山本広域市町  
村圏組合消防本部

八月十三日から十四日にかけて、所属にて実務研修を実施しました。三回目の実務研修であり、前回同様、宿泊での勤務となりました。一ヶ月後には所属に戻るため、即応できるように意識して臨みました。

午前中は、交替後資機材点検を行い、そのまま出場訓練を実施しました。タンク車隊員として活動し、六十五ミリホースを延長し、二又分岐媒介結合後、ホースバックで五十ミリホースを延長しました。その後三連梯子を架梯し、水の乗ったホースの吊り上げを実施しましたが、引き上げる側と送る側の息を合わせて行うことが重要だと感じました。午後からは、担当業務を中心に事務仕事に取り組みました。調査物についてのデータ作成等を行い、非番の先輩職員からの申し送りを参考に業務に臨みました。また、救急出動した際の無

線交信も実施し、久しぶりでしたが、落ち着いて出来たと思います。

今回の実務研修では、応用訓練を実施しましたが、現場では様々な想定が考えられるので、臨機応変に対応する力が基本だと改めて感じました。それは、基本が身につけてこそだと思つたので、残りの学校生活で今一度見直し、しっかりと基本を身に付けたいと思います。



安東 謙真  
男鹿地区消防一部  
事務組合消防本部

今回、三回目の実務研修がありました。

午前中は通信指令室に入り、通報の要領について学びました。学んでいる際に、何件もの救急の通報が入ってきました。様々な傷病者の症状・環境に素早く対応し、次々にやるべきことをこなしていく先輩の姿を実際に見ることができ、とても貴重な経験をすることができました。

午後は、高所放水車、大型化学車、泡原液搬送車の三台を使用しての訓練を見た後、実際に高所放水車に乗ることができました。この貴重な経験を、しっかりと自分の知識として覚えていきたいと思つた。また、応用梯子の訓練も行いました。

学校で学んでいたもので、比較的スムーズにできました。より実践で使えるようにするために、学校でしっかりと基礎を学び、そこから更に成長できるようにしたいです。

残り少なくなった学校生活で、自分自身成長し、充実した毎日を送れるよう頑張りたいです。





佐々木 嶺  
大曲仙北広域市町  
村圏組合消防本部

今回の実務研修では、前回を体調不良で欠席したため、人より多くのことを学べるように気合いを入れて臨んだ。初めての二四時間勤務で、不安も多かったが、同期の学生や所属の先輩方の協力もあり、研修を終えることができた。

十三日の午前中は、車両点検や資機材点検を行い、その後体力錬成を行った。その後、防火着装や呼吸器着装などの個別技能訓練を行った。防火着装は、所属では四十五秒で完全着装することになっていて、今時点ではまだまだなので、もっと訓練をする必要があると感じた。先輩の着装を見学することができたが、早く着装するための工夫がされていたので参考にしたいと思う。また、午後の応急梯子訓練では、基本的な部分は同じであったが、梯子の確保の仕方が少し違っていた。幾つかの方法を覚えておくことで、より幅の広い活動ができると思うので、自分の引き出しとして覚えておきたい。

最後に、今回の実務研修を通じて、実際の職場の雰囲気や自分の未熟さを感じた。残りの学校生活で、課題を克服して職場に戻れるように頑張りたい。



菊地 一葉  
大曲仙北広域市町  
村圏組合消防本部

三回目の実務研修は訓練が多い日程だった。防火衣の着装訓練では、防火衣が新しくなって初めての着装だったので、少し時間がかかってしまった。三年目の先輩は、二十八秒で着装していた。自分は細かいミスが多すぎるので、落ち着いて急ぎすぎないことが重要だと感じた。

午後は、最近学校でも訓練した応急はしご救出を行った。今までやっていない番員もすべてやることのできた。確保ロープの確保の仕方が間違っていたり、はしごを壁から離すときの手が逆になってしまったりなどミスが多かった。何故そうしなければならないかを考えて、理にかなった訓練をするよう心掛けていきたい。

夜に行った胸骨圧迫の訓練では、自分では出来ていると思っても、リコイルが甘くなってしまうことが多かったが、自分の位置や体重の乗せ方を少し変えただけで改善された。

学校生活が終わると、すぐに現場に出なくてはならない。今まで学習した知識をどのように活かしていけばよいか、考えていきたい。



トーハツ消防ポンプ  
モリタ自動車ポンプ  
消防被服全般  
秋田県代理店

総合防災設備センター

# 株式会社 高義商会

- (営業種目)
- トーハツ小型動力ポンプ
  - モリタ自動車ポンプ
  - ジェットホース
  - 消防被服全般
  - 消火災報知器各種
  - 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32  
TEL(0183)(42)2125  
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

# 株式会社 夕力ギ

秋田県横手市寿町1番28号  
TEL (0182)(32)3880  
FAX (0182)(32)0839

## (営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シバラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>  
E-mail [ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp)

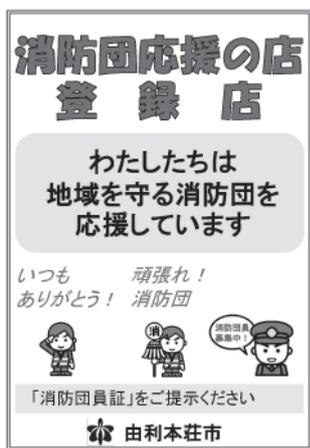
# 支部情報アラカルト

## 「消防団応援の店」事業開始

当支部の由利本荘市消防団並びにかほ市消防団では、今年度から「消防団応援の店」事業を実施しております。

昨年度の支部幹部教養研修「ワールドカフェ」※で、「当支部は両市とも生活圏が近く、お互いの市に勤務している団員も多いこと、消防団をもっと理解してもらい、地域活性化を図るためにも、この事業を実施してほしい」と要望が出されました。

早速、両市消防団で実施する方向で事業所等に提案したところ、数カ所から賛同が得られ、要綱案など作業を進め、今年度から事業を実施することができました。  
現在は、少しずつ登録店舗も増え



ており、消防団員の皆さんも利用しているようです。

両市のホームページでは登録店舗を随時更新し、県内や全国の消防団員も対象としている店舗もあります。

由利本荘市、にかほ市にお越しの際は、「消防団員証」をお持ちいただき、どうぞご利用ください。

今後、消防団への理解と地域活性化が図られることを願っております。

また、全国を見ると、県や消防協会が「消防団応援の店」事業に取り組んでいるところも見受けられるので、県や協会でも事業を実施していただくことを希望します。

※「ワールドカフェ」とは、メンバーの組み合わせを変えながら、四六人単位の小グループで話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる会話の手法の一つ。



(情報提供) 由利本荘にかほ支部

## 火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	令和元年		平成30年			同期比較	
	8月	累計	8月	累計	年計	8月	累計
建 物	20	129	15	104	166	5	25
林 野	0	29	1	14	14	- 1	15
車 輛	2	17	3	27	39	- 1	-10
その他	11	84	9	58	72	2	26
合 計	33	259	28	203	291	5	56
死者数	1	13	1	12	18	0	1
負傷者数	5	49	0	28	46	5	21

消防 半天・帯・団旗  
優勝旗・ゼッケン  
手拭・タオル・のれん  
旗幕類名入染物専門

## 寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

モリタ消防ポンプ シバウラポンプ  
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式  
各種消火器 消防機器一式

株式会社 能代消防センター  
株式会社 協 立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57  
TEL (0185) (52) 6494  
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献！

消 防  
ポンプ自動車  
小型ポンプ  
ホース

設 備  
火災報知器  
スプリンクラー  
消火器

## 猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)  
猿田興業ビル3F FAX 018 (824) 3651